

平成29年度第1回 横浜美術館指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 平成29年8月21日（月） 13時30分～ 15時30分
 2 場 所 横浜美術館 円形フォーラム
 3 出席者 高橋委員、西田委員、丸山委員、村井委員、吉本委員
 4 欠席者 なし
 5 傍聴者 なし
 6 議事内容

議題	<p>1 定足数の確認 2 委員会の公開 非公開について 3 平成28年度指定管理者業務の報告及び自己評価 行政評価の説明 4 平成28年度指定管理者業務についてのヒアリング</p>
委員 意見 等	<p>1 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>2 委員会の公開 非公開について 〈審議結果〉 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜美術館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。</p> <p>3 平成28年度指定管理者業務の報告及び自己評価 行政評価の説明 横浜美術館指定管理者から平成28年度指定管理者業務の報告及び自己評価の説明。 横浜市から平成28年度指定管理者業務の行政評価の説明。</p> <p>4 平成28年度指定管理者業務についてのヒアリング 〈質疑〉 【1 経営】 (委員) コレクションのパッケージ展の国内巡回について、横浜美術館で開催したコレクション展を巡回するのか、または巡回用に別途パッケージを作るのか。 (指定管理者) 今年度2期目のコレクション展を基に先方の美術館と協議し、内容を詰めていく予定。 (委員) 展覧会のタイトルに「横浜美術館コレクション」と入るのか。地方で開催した場合など、タイトルに入るとインパクトがあり、横浜美術館のPRとなる。 (指定管理者) 「横浜美術館コレクション」は必ず入れるよう調整している。 (委員) 横浜トリエンナーレの開催に向けて、横浜美術館と横浜トリエンナーレ組織委員会が連携して推進するとあるが、良い形で連携がとれたのか。</p>

(指定管理者)

平成28年度より、横浜トリエンナーレを担当する国際チームを立ち上げて、集中できる体制としたが業務量は相当多く、前後の展覧会を兼務することもある。美術館学芸員が主体的にトリエンナーレに関わり、組織委員会と連携していくのは、横浜独自であり、他都市では学芸員が横浜のように関わらない場合がほとんどである。

(委員)

《評価できる点》

- ・企画展のクオリティが高く、様々な連携を積極的に図っている。
- ・国際グループの新設により、横浜トリエンナーレの体制及び発信力の強化が図られている。
- ・多様なチャンネルにより工夫した広報が実施できている。
- ・新たな事業へのチャレンジにより成果をあげ、また継続性を持った事業の展開もできている。
- ・横浜トリエンナーレの開催にあたっては、構想会議というかたちを取っており、1人のディレクターが担うことへの課題提起になったのではないか。

《課題と考えられる点》

- ・横浜トリエンナーレへの注力により国際的な認知度が上がっているか検証が必要。

【2 事業①】

(委員)

《評価できる点》

- ・地元企業と連携した富士ゼロックス版画コレクション展、独自企画で行ったメアリー・カサット展の開催など、4本のバラエティに富んだ質の高い企画展ができている。

《課題と考えられる点》

- ・メディア展に依存できない状況で、コレクションを活かし海外発信していくことも出来る可能性はあると考える。
- ・来館者の更なる増に向け、広報等の周知における課題の検証を行い、今後の改善に繋げてほしい。

(指定管理者)

BODY/PLAY/POLITICS展で出品した3人の作家は、横浜美術館で開催後、国立新美術館、森美術館で開催された展覧会にも出品された。これらに先駆けて横浜美術館で紹介できた意義は大きい。

(委員)

富士ゼロックス版画コレクション展では、地元企業と連携し、その後の関係づくりも含め双方に良い機会となった。今後もコラボレーションの企画などを期待する。

【2 事業②】

(委員)

《評価できる点》

- ・「描かれた横浜」における季刊誌「横濱」との連携、写真コレクションの活用、美術情報センターの活用など豊富なコレクション・資料を活かし、魅力的な展覧会を開催出来ている。

《課題と考えられる点》

- ・他館への巡回展は、企画、営業等を工夫して実現して欲しい。

(委員)

年に1回紀要を発行することは公立美術館では通常の活動か。他の事業に注力することでこのような研究活動が埋没しかねない。そうならないようにしてほしい。

(指定管理者)

公立美術館としては通常の活動である。コレクションの研究活動により、結果的にコレクション展等の立案に繋がっている部分はある。

【2 事業③】

(委員)

《評価できる点》

- ・活発な教育プログラムや学校連携をしており、公立美術館として理想的な活動ができている。
- ・企画展の内容に連動する様々な取り組みが一般鑑賞者、市民に提供されている。
- ・美術館と市民が多彩なメニューにより、バランスよい協働を実現できている。
- ・ボランティア活動やコレクション・フレンズなど、市民が主体的に関わることを引き出せている。
- ・教員、ボランティアや市民と協働で組織体制を整え、コンテンツやプログラムの開発を行っていることは大きな意義がある。成果が出づらいつ分野であるため継続して行っていくことを期待する。

《課題と考えられる点》

- ・教育に係る事業など、今後も継続的に実施していくため、財源の確保や基盤の整備を期待する。
- ・海外の事例で、高齢者や認知症の方向けのプログラムを様々な館が連携し実施している例もある。横浜美術館では、現在そのような事業をアウトリーチで行っているが、館へ受け入れることも今後工夫の余地があると考え。横浜市の他の施設も含めそのような戦略を期待する。

(指定管理者)

高齢者施設へのアウトリーチでは、大学とも連携しており、参加者から良い感想も寄せられている。しかし多くの回数を実施できないので、受け入れる方法なども行政や他の美術館と連携し可能性を探っていきたい。

(委員)

海外では、まずケアマネージャーの方などに美術館に来てもらっている。バリアフリーなどの課題はあるが、横浜美術館の強みとして伸ばしていけるよう期待する。

また、現場での対応など難しいことではあるが、アートを通じ高齢者や子どもが触れ合う機会の創出など、様々な人が交流し、混ざっていく場となるよう期待する。

学校の先生が子どもたちを連れてくることは難しいか。

(指定管理者)

受け入れ体制的に難しい部分はあるが、横浜みなとみらいホールで行っている鑑賞会の際に、希望がある場合は横浜美術館の鑑賞も受け入れられるようにしている。

学校向けには、教師と協働し、授業の教材を作成し美術館のホームページでダウンロードできるようにしている。昨年度始めたばかりの事業だが、今後継続し、学校の鑑賞授業でのコレクション作品の活用を定着させたい。

【3 施設の運営事業】

(委員)

《評価できる点》

・託児サービスや障がいのある方への補助、季節ごとの行事など自然な形で演出が出来ている。その結果がアンケートでも高い水準となっている。

《課題と考えられる点》

・高齢者、外国人の方が増えて来ており、恒常的に運営の工夫を図っていく必要がある。

・大規模改修に向け、企業だけでなく個人の寄付の仕組みづくりを検討してはどうか。

【4～7その他の業務、人員計画、留意事項、収支計画】

(委員)

人員体制は、今後も、現在の人数を継続していくのか。

(指定管理者)

現在の業務を行っていくうえで、最低限の人員体制にある。

(委員)

《評価できる点》

・BODY/PLAY/POLITICS展での企業協賛のレセプション開催などにより、市民・企業に支えられている美術館として、あり方を示すことが出来ている。

・市民ファンドとして、コレクション・フレンズを安定的に運用し、分かりやすい仕組みでできている。

・政策目標の実現に向けて人員体制を整え、積極的に実施する姿勢が伺える。

・収支計画では、全体のバランスが取れており、経営能力を発揮できている。

《課題と考えられる点》

・今後の収支では、圧縮する部分は圧縮することが必要であるが、全体が縮小していかないよう、投資も積極的に行い、メリハリを付けていくことを期待する。

【総括】

(委員)

・各担当がモチベーション高く取り組んでおり、公立の美術館としてモデルとなるような質の高い事業が実施できている。

・市民協働では、英語ガイドの試行、街歩きツアーなど多くのプログラムで美術と市民を繋げている。今後も、多面的な美術館へのアクセスと寄与、新しい価値観を享受できる本質的な市民協働の継続的な発展を期待する。

・質の高い活動を継続出来ていることを高く評価する。

・美術館として、着実に成果を一つずつ積み上げられている。長期的には、首都圏での横浜美術館の立ち位置や強みを考え、意欲的にチャレンジしていくことを期待する。

議事は以上